

令和6年度第1回逗子市自殺対策計画推進懇話会 議事録

日 時 令和6年8月1日(木) 13時30分から 15時30分
場 所 逗子市保健センター3階会議室
出席者 瀬尾勲(アドバイザー)、小保内洋子(アドバイザー)
市川悟、市川由美子、中村圭佑(代理出席)、小野真歩、漆垣かなえ、石澤万里
欠席者 池上直樹、中島富美子
傍 聴 なし
事務局 小上馬課長、青山副主幹、稲井係長、竹内、福本、木元

議事概要

1. 開会

資料確認及び課長あいさつ、自己紹介を行った。

2. 議題

(1) 第二期逗子市自殺対策計画の概要について

<事務局より>

- ① 策定の趣旨、基本理念、統計について。
- ② 逗子市の自殺の実態について。
- ③ これまでの取り組みについて。取り組みの4本の柱に沿って実施した事業の説明。
- ④ 取り組みの方向性について。・・・統計上では母数が少ないため、有意な結果が得られない。大綱に沿い、全ての対象者に対して対策に取り組んでいく。
- ⑤ これからの取り組みについて。・・・取り組みの4本の柱について説明。市民と関わる全ての関係課が自殺対策の視点をひとりひとりが意識持ち、各事業と自殺対策との関連が明確になることで、全庁的に全職員が自殺対策として取り組むことができる。
- ⑥ これからの成果指標・・・成果指標については、国や県の指標を合わせて、自殺死亡率の10.2以下とする。

【質疑応答】

・意見なし

(2) 令和5年度自殺対策事業の評価について

<事務局より>

逗子市の取り組みの4本の柱に分けて評価を実施した。全体を通して、概ね計画通り取り組めた。

- ① 生きることを支える人材育成・・・評価A
- ② 市民への啓発・周知・・・評価B

③ 地域・庁内組織間における連携の強化・・・評価 B

④ 生きることの促進要因への支援・・・評価 B

【質疑応答】

<メンバーより>

・ゲートキーパー研修を受けた人の地域での活用について、今後どのように考えているか。

<事務局より>

・今年度、過去のゲートキーパー研修受講者に集まっただき、普段自殺に関連して活動されている中で苦悩や困り事などを共有する場を設ける予定。また、過去の受講者と事務局と共に自殺対策普及啓発活動（9月）を企画している。実施してみて今後については検討していきたい。

（3） 令和6年度自殺対策事業について

<事務局より>

・今年度の自殺対策事業について説明。一押し事業については、教育研究相談センターと共催で教職員及び子どもと関わる職種の方向けのゲートキーパー研修を企画実施した。普及啓発は自殺対策講演会、自殺予防週間、強化月間に自殺対策普及啓発活動を予定している。今年度初の試みで、ボランティアと共に普及啓発の実施予定である。

<アドバイザーより>

・ゲートキーパー受講後の方が地域での活動について、経験談について共有する場、語る場を設ける等を事業に組み込んでも良いのではないか。

・統計上から、女性の問題や40代～50代の自殺率の高さが伺える。その要因について考えられるのは、仕事をしながら子育てと介護のダブルケアの問題。ひとつとして国民の経済的な安定を図るために、行政で対策が検討される必要がある。

・自殺対策という看板を掲げるのではなく、さりげない居場所づくり、地域づくりが必要なのではないか。現実的な事業を企画する必要がある。

<メンバーより>

・鎌倉保健福祉事務所では、いきるを支える実行委員会、ゲートキーパー研修、自殺未遂者支援を実施している。統計から自殺者のうち3割が過去に自殺未遂歴があるという現状がある。未遂者支援については医療機関との連携を、既存の会議でフォローできたら良いかと考えている。支援の実際については、通院先への情報提供や調整にとどまり、対象の方への直接的支援にはつながりにくい。

・ゲートキーパー養成講座の利点は、誰でもなれること。その気軽さを伝えていきたい。受講したゲートキーパーが孤立しないためにフォローアップの場はあった方が良くと思う一方で、成功体験を発表や事例提供をしなければならないとなると、各々の参加者に責任が重く感じる人も出てくる。ゲートキーパーの成り手が少なくなる可能性もあるのではないか。

- ・警察での未遂者支援について、自殺や未遂者の背景には、家庭や学校、なかなかその場では解決できない複合的な問題を抱えている場合が多い。会話をし、雑談をしていく中で、未遂者自身が気持ちを表出する場となり、支援が広がることがあると感じている。
- ・ゲートキーパーは、話を聴いたり支える側の人で、真面目に熱心に向き合うほど、対象者に引きずられ、調子が悪くなる人もいる。支援者側のケアも考える必要がある。
- ・社会福祉協議会として自殺対策に関しては、いきるを支える実行委員会に参加、生活困窮者の自立支援を実施している。
- ・事例では、詐欺にあってしまい自殺未遂をした方。障害がある方で、自己破産の必要あり、社協の弁護士相談に繋がった。もう一例は、専業主婦で妻、子と離別し無職の方の自殺未遂。相談を通して、就労支援、ハローワークへの同行した事例があった。日々の相談業務で、対象者と話をする中で、対象者が自身の気持ちに整理をしていく手助けをしていくことを意識している。
- ・教職員向けゲートキーパー研修に参加した教員から、他の教員に共有し参加希望する声も上がっていた。今後枠を広げていきたい。
- ・今後の取り組みとしては、PTA主催の保護者とカウンセラーが共に参加する勉強会。テーマは、「子育ての仕方、低年齢の子どもへのしかり方」、400人の参加を予定している。地域との顔の見える関係づくり、保護者同士の子育ての悩みの共有の場となりそう。
- ・LINE相談や電話相談は子どもたちがアクセスしても、なかなかタイムリーに繋がらなかったり、ほしい回答が得られなかったりして、結果ネット上のコミュニティに繋がってしまい、誤った情報を得てしまうこともある。
- ・学校カウンセラーが受ける1600件/年の相談業務の35%は教員のカウンセリングである。支援する側のケアも実施している。
- ・主任児童委員として、何かあったらキャッチして、対応している。一方で、自分自身も子育てしている親としての役割もあり、コロナ禍での不安感や苦勞を感じている。今後も引き続き子育てする母とたくさん話をしながら支援につなげていきたい。
- ・どこまで入りこんで良いのか迷うことがある。世代も環境も異なる。聴くこと、見ること、話ができるか、同行し支援に繋げるのか。民生委員として、どこにつなげばよいかは熟知しているため、関係機関につなぐ支援はできると感じている。
- ・市で行っている自殺対策計画の内容や各事業内容についてはよく理解できた。ただ一市民として、自殺リスクのありそうな人、心身の不調や様子の変化のある人、困っている人に気づいて声をかけるところで不安がある。
- ・子育て世代や独居の高齢者等、市役所の目が届く人はいいのかもしれないが、それ以外の層（青年期壮年期）にはなかなか市役所の目が入りにくいと感じる。
- ・自分も地域で暮らす中、声をかけた方がいいかな、と感じることがあるが、どのように声を掛けたらよいか、挨拶で終わってしまうことも多い。気づいても、そこからの支援が見えにくい。

- ・自殺対策は庁内だけでなく、有機的につなげていくことが重要である。

3. 閉会

- ・課長より挨拶。
- ・次回は1月下旬～2月上旬で開催予定。

以上